安江様を偲ぶ

横田カーター 啓子

わたくしが安江さんと知己を得ましたは北米日本研究資料調整協議会の会長を2012年より3年間勤め、その仕事を通してでした。

わたくしが安江さんと親しくお話し始めたのは、この数年にわたり、ヨーロッパ日本研究資料専門家会議の年次会議で、毎年一度、安江さんと小出さ

んにお目にかかるようになってからで、お二人にお目にかかることは楽しみでした。毎年、ヨーロッパ各地にある日本資料保存を調査されている安江さんのご報告や、ご自身のご研究の発表を拝聴するのはとても楽しく多くを学ぶことができました。

その中でも特に印象深かったのは、二年前、2019年9月にブルガリアのソフィア大学で開かれた会議で、安江さんが話された、16世紀にイエズス会宣教師と天正遣欧少年視察団が日本に持ち帰ったグーテンベルグ印刷機の歴史的価値についてのご講義でした。丁度、わたくし自身、キリシタン資料の収集を図書館で始めた頃でしたので、とりわけ興味をひかれたのですが、安江さんが、当時の最新テクノロジーであったグーテンベルグ印刷機が日本に持ち帰られた、それも天草という、京都や大坂より遠く離れた地に運ばれてきていたこと、そこで出版・文化・教育活動が行われていたこと、そしてその文化的影響を、日本の印刷と出版、文字文化の歴史の中で再評価されるべきだと指摘されていたことが、今でも深く心に残っています。

安江さんのこのご発表の後、質問して少しお話していて、安江さんが「コーヒーを取りに行ってきます」とおっしゃられました。その後、多くの人がいて会話は続きませんでしたが、わたくしは、また次のヨーロッパ日本研究資料専門家の会議、そう昨年ロシアで開催されるはずだった会議で安江さんにお会いして、安江さんの講義が興味深く啓発されたことにお礼を申し上げ、また、わたくしが九州で訪問したキリシタン資料館資料保存のお話をすることをとても楽しみにしていました。

このことを思い出すと、いまも、コーヒーカップを持った安江さんが、にこにこと優しく、「お待たせしました」と歩いて返っていらっしゃり、お声も心に聞こえてくるようです。

このご発表は私の中に、「一粒の種」を撒いてくださいました。安江さんの語り口、お声もまだ心に響いて「聴く」ことができます。資料を発掘して、資料を見直して、歴史を再考する、再構築する、そのことで今の世界も違って見えてくる、その楽しさ、喜び、もっと知りたいとわくわくする気持ち、なにか「命」とでも呼べるような「未来につながっていく力」を、わたくしに残してくださいました。

そして、この印刷機のお話は、とりもなおさず、安江さんがなぜ資料保存

のためにお仕事をされていたのかという理由にも繋がります。一人一人のかけがえのない人間が生きていたという事実、その時の人間の生活と心を記録し、印刷することでより多くの人と共有できるようになる、そして、その記録された資料を保存することが、わたくしたち人間にとってどんなに「人間であり続けるために」大切なのかと、その重要性を繰り返し教えてくださっていた。そのことを改めてありがたく思います。

安江さんのお言葉の数々がこれだけ「一粒の種」として、わたくしの中で生きているのは、安江さんのお言葉には真実と魂と行動がこもっていて、安江さんの命のエネルギーが込められていたからだと、今、思います。安江さんからいただいた「一粒の命の種」はわたくしが生きている限り大切に持ち続け育てていきます。

安江さんは、ヨーロッパの会議でわたくしが発表した時には、いつでも熱心に聞いてくださり、質問をしてくださったり、後で、コメントをくださるなど、いつも暖かく叱咤激励してくださいました。

北米、ヨーロッパ、インド、東南アジア、オーストラリア、世界中にいる日本研究司書、日本研究者のために、そして、世界中にある日本資料のことをいつも心にかけ、行動してご貢献してくださったこと、わたくしにも思いやりあふれるご教示をくださり、言葉をかけてくださったこと、心より感謝いたします。

何よりも心打たれますのは、こういった数々のことから伝わる安江さんの日本という国と文化、文化を創り支えてきた日本の人々への愛情の深さです。日本にかかわろうとする海外の、国籍、人種などを問わない、人間への愛情の深さです。

ところで、2022年2月に小出いずみさんが『日本交流史の中の福田なをみ―「外国研究」とライブラリアン』をご出版されました。日米両国での図書館司書の状況や、海外での日本研究、日本研究者のことを理解されている小出さんにしか書けない渾身の感動的力作です。最終章まで読み進んで来た時、わたくしには、小出さんのお仕事なのですが、小出さんに伴走されている安江さんのお顔が浮かんできて、まるで声が聞こえてくるようで、それは最後まで続きました。「これはあなたに“しか”できないことだ、がんばれ、あなたのことを誇りに思っている」とおっしゃっているようで、小出さんの

側で一緒に走りながら励ましていらっしゃる姿が浮かんできたのです。深い愛情と尊敬をお互いにお持ちであることは、ヨーロッパの会議でもお二人のさり気ないご様子から伺われました。このことを思う時わたくしの心も温かい気持ちで包まれます。

安江さんがわたくしたちにくださったことは言葉では十分に表すことはできません。安江さんがくださった「一粒の命の種」を育てながら、安江さんが情熱を傾けておられた日本の資料保存と日本研究支援の仕事をすることで、ご恩をお返ししていきたいと思います。

今は心をこめて、安江さんが神様の御手の平安のうちにいらっしゃることをお祈り申し上げます。そして、小出さんはじめ、ご家族の皆様方に深くお悔やみ申し上げます。

（ミシガン大学図書館）

追憶

安江明夫

＋

安江いずみ編

Remembering Akio Yasue

追憶・安江明夫
Remembering Akio Yasue

2023年11月12日　発行

編集・発行　安江 いずみ
books.yasue@gmail.com
装丁　建石 修志
製作　日外アソシエーツ株式会社
印刷・製本　株式会社平河工業社

（非売品）